

## 卒業生の意見を本学の教育・研究の改善に繋げるためのアンケートについて

卒業生の皆様から頂いた貴重なご意見ご提案を踏まえて、広島大学の教育・研究，大学運営の充実に向けた取り組みを行うとともに，更なる改善を行いました。

### 1. 大学生活全般について

本学では，大学生活全般において学生一人一人が社会で通用する基礎力及び実践的応用力を身につけることの重要性を認識しております。

そのための具体的方策として，学生の自発的活動を尊重することを目的とし，授業等の改善，海外留学の推進，地域活動，課外活動及びボランティア活動への支援を行っています。

今後も引き続き，皆様からのご意見等を踏まえ，検証・改善に努めて参ります。

### 2. 教養教育について

教養教育では「幅広く深い教養と総合的な判断力を培い，豊かな人間性を涵養する」という教育理念の下，急速に変化する社会情勢や国際情勢にも十分配慮しつつ，継続的な見直し，改革を実行してきました。特に，平成 30 年度からは，上記理念に加え，「自ら主体的に考え，問題を発見し，解決する能力を涵養すること」，「グローバルな視野に立ち，国内外で活躍するための能力を涵養すること」を目的として掲げ，以下の 3 点を柱とした新カリキュラムを実施しています。

- ①大学で学ぶ上で基本となる技能や態度を身につけさせるための必修科目「大学教育入門」を新設
- ②パッケージ別科目と領域科目を統合し，人文社会科学系科目群と自然科学系科目群からなる新たな科目区分（領域科目）を開設
- ③社会人基礎力の育成に関する科目区分（社会連携科目）を開設

アンケートでは，「教養教育の意義・目的の明確化」や「対話型授業」に関して複数のご意見，ご要望をいただいておりますが，前者の課題に対しては，入学直後の「教養教育ガイダンス」や「大学教育入門」を通じて，大学での学びの意義や，教養教育の位置付けをより分かりやすく伝えられるよう改善に取り組んでおります。一方，後者の課題に対しては，学生が主体的に授業へ参画できるよう教養教育全体でアクティブ・ラーニングの導入を推進しています。

また，グローバル化の進展に伴い，例年，英語をはじめとする外国語科目に対するご意見等が多く寄せられていますが，本学では，到達目標型教育の一環として TOEIC(R) L&R IP テストを平成 16 年度より全学一斉実施により行っております。平成 28 年度には，従来の指定受験枠に加え，全学生を対象とする希望受験枠を設けることで，同テストの受験機会の拡大を図っており，平成 30 年度は，年 2 回（5 月，11 月）の受験機会を提供し，約 4,300 名の希望受験枠を確保しております。さらに英語で実施する教養教育科目について，平成 27 年度には 11 科目しかありませんでしたが，平成 30 年度は

40 科目提供しており、今後もさらに拡大させると同時に、より実践的で教育効果の高い授業を提供できるよう外国語科目プログラムの見直し、改善に引き続き取り組んで参ります。

加えて、新規採用教員および新規に教養教育の授業を担当する教員らが上記の目的や取組みを十分理解した上で授業を提供できるよう研修会を開催し、教員の質向上を図っているほか、ファカルティ・ディベロプメント（FD）の一環として教員間の授業参観・研究会を定期的に行い、継続的な授業改善に役立てています。

上述のとおり、これまでも多角的な視点で教養教育改革を実行してきましたが、今後も学生及び社会のニーズに応えられるよう、引き続き改善を推進して参ります。

教養教育科目では、平成 28 年度から「キャリア教養講座 - 世界に通用する高い社会人を身につける -」を、平成 30 年度から「キャリアデザイン講座-先輩プロフェッショナルが「あなたの未来」のために語る-」を開講し、社会人経験のある方の話を聞いて、将来のキャリアを考えたい学生のニーズに一層応えられるようにしました。

### 3. 専門教育について

幅広い視野から物事を捉え、高い倫理性に裏打ちされた的確な判断を下すことの出来る人材育成のための主な取り組みとして、学士課程において次に掲げる教育を行っています。

- (1) 到達目標型教育を実現するための教育プログラムの実施・検証・改善
- (2) 問題発見解決能力向上のため教育（PBL教育）  
－相手の立場で理解する能力の育成・専門外の考え方を含めまとめる能力の育成－
- (3) 卒業時における外国語運用能力向上のため全在学期間にわたっての TOEIC (R) L&R I Pテストを実施（グローバル化社会に向けての対応）
- (4) 教育の質保証のため授業改善アンケートを実施

本学では、留学やボランティア活動といった学生の主体的な学習体験の促進や、授業を短期間で集中的に受講することによる教育効果の向上等を目的として、クォーター制（4学期制）を導入しています。

プレゼンテーションや討論の場があればよかったとのご意見がありましたが、対話・討論や反転授業等のアクティブラーニングを授業に取り入れやすくするため、1クォーターで完結する授業科目は、週2コマ連続(180分)で実施することを原則とし、主体的な学びが実現できる修学環境を整えているところです。今後も引き続き、皆様からのご意見等を踏まえながら検証・改善に努めて参ります。

### 4. 学生支援について

本学に入学された皆さんが、卒業されるまであらゆる面で充実した学生生活を送れるよう、きめ細やかな学生生活のサポートを行っています。

学生の課外活動については、今後も課外活動施設の維持管理や助成物品の支給など、

更なる充実に努めていきます。また、ボランティア活動についても、学生の皆さんが積極的に参加できるよう情報提供に努めるとともに、平成 29 年度からは東広島市内各所で行うボランティアに係る交通費は大学で負担する制度を設け、学生の負担を軽減するよう努めました。

未成年飲酒が見受けられる旨の意見がありました。本学では規範教育を重要視しており、毎年全学部・全研究科において規範意識に関する学生との意見交換会を実施し、学生が事件・事故に巻き込まれないよう未然防止に努めています。

学生への経済支援について、「(授業料) 免除申請に時間がかかる。」とのご意見をいただきましたが、平成 29 年度前期分の授業料免除申請受付から東広島地区において受付予約システムを導入し、申請される学生の方をお待たせすることなく受付することが可能となりました。更に平成 30 年度からは霞地区及び東千田地区においても同システムを導入し、待ち時間の大幅な短縮を実現し、より一層の学生サービスの向上を図っております。

授業料免除や奨学金が受けられて良かったという声が多く寄せられています。本学では、経済支援制度として授業料免除、入学金免除・徴収猶予制度などを実施していますが、広島大学独自の給付型奨学制度である「フェニックス奨学制度」を平成 20 年度から実施し、平成 29 年度からは在學生（3 年次生から）を対象とした給付型奨学制度である「光り輝く奨学制度」の実施を始め、学力が優秀でありながら経済的理由により大学進学や就学が困難な学生を支援する制度を充実させました。

これらの制度については、広島大学ホームページ（キャンパスライフ情報（学生情報の森もみじ）→学生生活のサポート→経済支援）において情報を提供しています。

今回のアンケート調査で、多く取り上げられました進路・就職についての充実・改善の要望として、年上の社会人との交流を行い就職活動につなげたい、就職指導に関して、もう少し認知度をあげる活動をしてもらいたい等がありました。主な改善・取り組み内容は次に掲げるとおりです。

- (1) 大都市圏（東京・大阪）での就職活動を希望する学生支援として、就活支援ツアーを企画し、校友会等組織と連携して現役学生と卒業生との交流の場の設定
- (2) 進路が決まった学生の協力を得て、就職活動を行う後輩に対して自らの体験をもとにサポートをしてもらうキャリアサポーター制度の充実
- (3) 広島大学消費生活協同組合と連携し、教員採用試験対策講座及び公務員試験対策講座を実施
- (4) 東京オフィスと連携し、首都圏で就職活動を行う学生へ休憩スペースの提供
- (5) 広島県、広島市をはじめ、様々な自治体・企業と連携することにより、学生のインターンシップ参加を促進
- (6) 情報を閲覧しやすくするために、グローバルキャリアデザインセンターのホームページを改修
- (7) 就職活動の進め方について、職員が講義形式で指導、また約 10 人の相談員がグローバルキャリアデザインセンターで面談対応

(8) 卒業生と在学生とのつながりを築いていくため、関東・関西・広島のOB・OGによる業界研究セミナーを平成30年度から開催

今後も引き続き、皆様からのご意見等を踏まえ、検証・改善に努めて参ります。